

ふくしing  
いわての福祉を  
**耕す**

社会福祉法人  
**住田町  
社会福祉協議会**  
住田町世田米字川向96-5



佐々木松久会長



菅野英子保健師

# 誰もが気兼ねなくよりあえるカフェ

## 新たな支えあいの仕組みづくり

住田町社会福祉協議会が世田米商店街の空き店舗に開設（6月2日）した「すみたよりあいカフェしようわばし」は、誰もが気兼ねなくよりあえる中心型カフェです。開店は週1回（午前9時～午後4時）。平均40人前後の高齢者やボランティア等が訪れ、笑顔が絶えません。

中心型カフェは町社協が取り組む地域支えあい事業のひとつ。「高齢者に外出機会を提供し、介護予防につなげ、地域で支えあう仕組みを確かなものにした」と、町法人邑サポートが協力して運営しています。

特色はカフェを支えるボランティアが、中高生からシニアまで幅広くことです。開設にあたっては企業、地域住民、住田高校福祉ボ

ランティアらが内装などの環境整備からテーブルや椅子など備品の調達まで協力しました。

もうひとつは高齢者の交流の場というだけでなく、認知症の方、障がいを持つ方、ひきこもりの方などの居場所としての役割も担っていることです。

カフェを訪れた佐々木和子さんは「楽しくよりあえる場所ができている嬉しいです。生活にも張りがあります」と笑顔。

町社協の保健師でコミュニティソーシャルワーカーの菅野英子主任は「世代を越えて町民が訪れ、和やかに親睦を深めています。支えあひ意識が若い人にも波及しています。開設準備段階で町民にチラシを配布して協力を求めたところ、すぐに反応がありました。住田型ともいべき地域のニーズに柔軟に対応できる支えあいの仕組みを確かなものしながら、介護予防の場、コミュニティの場を広げていきたい」と話しています。

中心型カフェは有住地区にも開設を計画していますが、既に地域の住民が主導する地域型カフェは、町内12か所で開設（月1～2回）しています。また、民生委員を中心としたふれあいサロンは、約20か所で開催（年間約40回）されています。

こうした地域住民や民生委員、

ボランティアを中心とした地域福祉活動は、在宅高齢者が安心して暮らす上で大きな力となっています。

## 「福祉のまち住田」をつくる

住田町は少子高齢化や過疎化の進行、コミュニティ機能の低下などが課題となっており、高齢化率は先ごろ40%を超えました。

町社協ではこうした課題を背景に、「住み慣れた地域で支えあい、安心していきいきと暮らせる、福祉のまちづくり」を基本理念とする「住田町地域福祉活動計画」（※すみた輪（和）っこプラン・平成27年度～31年度）を策定。

実施初年度の今年度は、「よりあいカフェ事業」のほか、要望の多かった福祉有償運送事業「おたっしや移送サービス」（※移動が困難な要介護者や障がい者の足となるサービス）や、シルバー人材センターの再組織化（※経験と技能を活かした生きがいづくりと社会参加の推進）などの事業をスタートさせています。

佐々木松久会長は「福祉の町すみたをつくるために社協の果たす役割、介護保険事業の在り方、地域福祉活動計画の推進について、職員一人ひとりが認識を深め、一丸となって活動していきたい」と話しています。



「いらっしゃいませ、どうぞおすわりください」とスタッフが対応



商店街に開設したカフェ



シニアのボランティアが訪れ得意のハーモニカを演奏

